

□議員名 中村博行

## 1 農業政策について

論点	川東地区の圃場整備について、調査費の適用範囲の説明など地元との連携は十分か。
回答	調査費の内訳として、地形図作成業務、農地集団化作成業務を行っている。昨年度、地元で準備委員会を発足し、今年 5 月に推進委員会に改め、2 か月に一度協議を実施している。参加者の美祢農林、土改連、農業委員会、市農林水産課で地元と連携し進めていく。

論点	この地区の圃場整備を進める上での課題は何があつて、これに市としてどのように指導、支援していくのか。
回答	課題としては、担い手、後継者などの耕作者、基盤整備後の換地が上げられる。今後、営農計画の作成、農事組合法人設立の予定があり、今年度より営農部会と換地部会を構成し、圃場整備に取り組む。この中で、県、市、土改連などと連携し、指導・支援をしていく。

論点	各土地改良区の複式簿記移行についての準備状況はどうか。また、支援の予定はあるか。
回答	土地改良法の一部改正に伴い、土地改良区の財務制度の見直しが求められ本市の 5 土地改良区については、既に実施計画の保全計画業務を実施した。現時点で、会計ソフトを導入しているのは 1 組織で、他 4 組織は検討中と聞いている。土改連と共にサポートしていく。

論点	今年度の稲作は、トビイロウンカによる被害が甚大であった。これに対する市の支援等はあるのか。
回答	JA、農家関係者立会いの下、現地を確認し、ウンカ及び潮風被害の深刻な状況を把握している。山口県と歩調を合わせ、農家の生産意欲の向上を目的に次期作の種子の確保、購入に対し、関係者の要望を聞き、市としてもしっかりした支援策を実施していく。

論点	農林水産課と農業委員会が小野田地区、山陽地区に離れていることに対し、農業者の利便性から改善が求められているが、どうか。
----	---

回答	農業委員会から意見書があった。農林水産課が厚狭地区に移転することについては農業委員会との連携、山陽地区農業者の利便性はよくなるが、水産業務、土地改良業務への影響から慎重に検討すべきであり、また複合施設のスペースの問題から移転は困難である。
----	---

## 2 藤田市長の2期目について

論点	出馬表明の時期は、いつ頃がよいと考えているか。 (12月3日に 出馬表明があり、割愛する)
回答	

論点	1期目の成果と課題、2期目に目指すもの、抱負についてどうか。このまちの評価と合わせて伺います。
回答	アフターコロナを見据えた中長期的な展望としての持続可能な地域社会をつくっていく中で、3つの大きなテーマを考えている。「地域を創る」、「人を創る」、「まちの価値を創る」のテーマを持って、スマイルシティ山陽小野田を市民と一緒に実現していきたい。

## 3 コロナ禍でのチャンスについて

論点	新型コロナウイルスの影響から社会の生活様式が大きく変わり、大都市から地方への移住が盛んになっている。本市の対応はどうか。
回答	本市の移住施策としては、本年4月からシティセールス課の中に定住促進係を新設し、移住に関する相談を聞き、内容に応じた窓口の紹介や転入奨励金交付制度の案内をしている。今後もシティセールスにおいて、本市への移住に関する情報を幅広く発信していく。